

小学校 5年前と比べて小規模校は2校増加し14校、大規模校も8校増加し18校

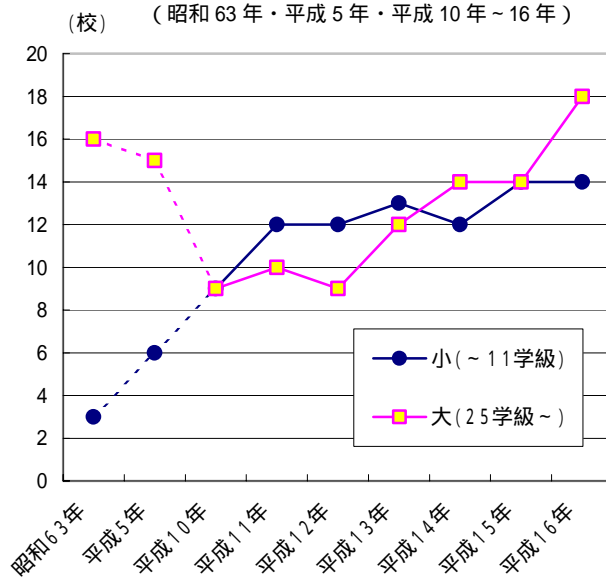
市立小学校に通う児童数は、平成11年は61,854人、平成16年には65,545人で、約6%増えています。

一方、学校の規模で11学級以下の小規模校は、昭和63年には3校でしたが、最近5年間では、12校から14校となっています。

また、25学級以上の大規模校（過大規模校も含む。）は、昭和63年の16校から平成12年の9校まで減少しましたが、それ以降増加し、平成16年には18校となりました。

大規模校を昭和63年と平成16年とで比較すると、新たな大規模校は、高津区以北にある小学校がほとんどです。このことから、市北部に児童数が増加している地域が多いことが、うかがえます。

小学校 小規模・大規模校の推移



資料：学校基本調査

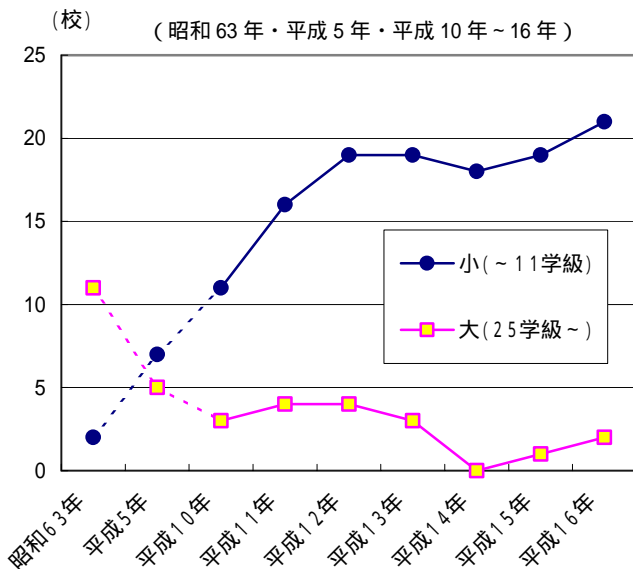
小規模校：普通学級数が11学級以下の学校

大規模校：普通学級数が25学級以上30学級以下の学校

過大規模校：普通学級数が31学級以上の学校

中学校 平成14年から小規模校、大規模校とも増加

中学校 小規模・大規模校の推移



夜間学級は含めず。

資料：学校基本調査

市立中学校に通う生徒数は、平成11年は26,604人、平成16年には、24,488人で、約8%減少しています。

生徒数の減少にあわせて、長期的には小規模校は増加傾向、大規模校は減少傾向にあります。しかし、平成14年に大規模校は、いったんはなくなりましたが、平成15年には1校、平成16年には2校になりました。

市立小学校児童数・中学校生徒数のピーク

小学生 100,163人 (昭和55年)

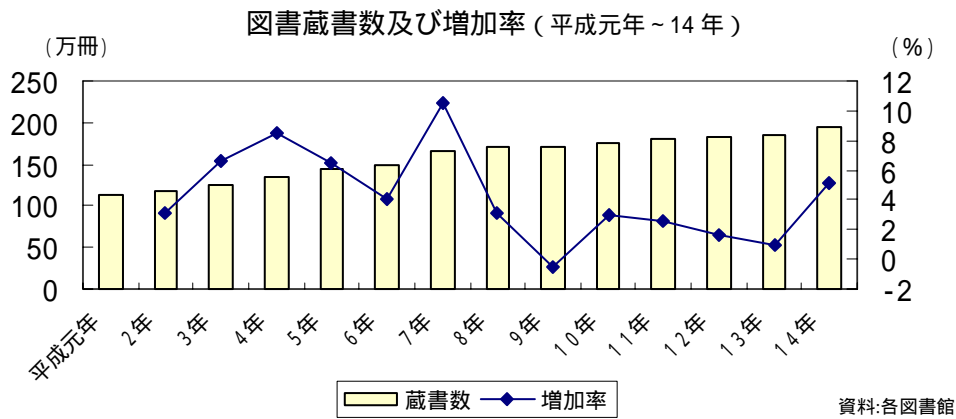
中学生 44,637人 (昭和61年)

図書館の蔵書冊数は 194 万冊

平成 14 年度末の市立図書館(10 館)及び県立川崎図書館の蔵書冊数は 194 万冊で、平成 14 年度末現在と同じ 11 図書館となった 7 年度末の蔵書冊数に比較し、17%増加となっています。

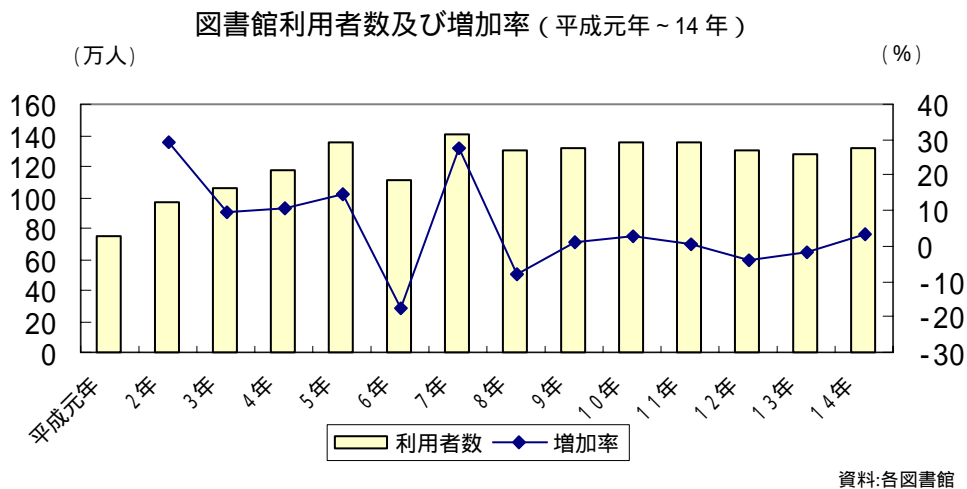
また、市民 1 人当たりの冊数をみると、平成 14 年度末は 1.51 冊で 7 年度末(1.38 冊)に比較して 9.4%増加となっています。

なお、平成 15 年中に、市立麻生図書館柿生分館と市立幸図書館日吉分館の 2 館がオープンして、13 図書館になりました。



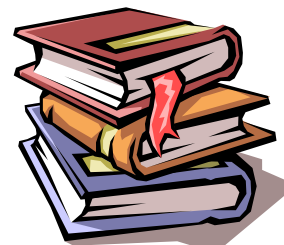
図書館の年間利用者は 131 万人

平成 14 年度末の市立図書館(10 館)及び県立川崎図書館の年間利用者数は 131 万人で、13 年度末に比較し、5.2%増加しました。



1人当たり年間貸出冊数は10冊

川崎市の図書館での登録者1人当たりの年間貸出冊数は、10.2冊で13大都市中、9番目となっています。



平成14年大都市比較

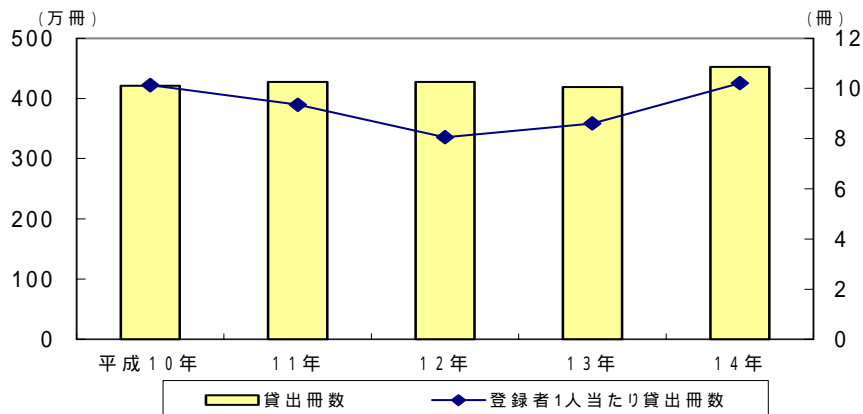
区分	図書館数	図書冊数	登録者数	貸出冊数	登録者1人当たり貸出冊数
札幌市	34	2 092 966	616 740	4 928 585	8.0
仙台市	9	2 459 883	327 943	5 280 313	16.1
千葉市	8	2 539 431	345 272	4 016 706	11.6
東京都区部	221	25 470 157	3 308 320	51 710 070	15.6
川崎市	11	1 966 301	443 114	4 523 424	10.2
横浜市	19	4 246 510	1 311 122	11 298 193	8.6
名古屋市	19	3 675 339	607 003	11 156 968	18.4
京都市	21	2 627 729	342 112	5 299 335	15.5
大阪市	25	3 519 604	367 847	11 197 436	30.4
神戸市	11	1 582 671	249 475	5 087 415	20.4
広島市	16	3 338 225	555 229	4 868 974	8.8
北九州市	16	1 425 061	182 761	2 586 677	14.2
福岡市	10	2 136 828	515 865	4 915 646	9.5

資料:大都市比較統計年表

貸出冊数の推移をみると、平成元年は199万冊でしたが、7年は356万冊、10年には421万冊と増加傾向を示し、14年には452万冊となっています。

登録者1人当たりの貸出冊数みると、平成10年は10.1冊、12年は8.1冊と低下しましたが、その後増加し14年は、10.2冊となっています。

貸出冊数及び登録者1人当たり貸出冊数
(平成10年~14年)



資料：大都市比較統計年表